

# 平成 22 年燧灘カタクチイワシ漁況予報

平成 22 年 6 月 21 日  
香川県水産試験場

香川県では、平成 5 年から燧灘海域において、愛媛県、広島県と共同でカタクチイワシの資源管理に取り組んでいる。平成 21 年の共販の取扱数量は 2,753 トンで、前年比 137%、平年比（平年値：平成 5 年～平成 20 年までの平均）175%であった。取扱金額および平均単価はそれぞれ 18 億 1,200 万円（前年比：120%、平年比：131%）、658 円（前年比：87%、平年比：74%）であった。平成 21 年のカタクチイワシ漁は、チリメンは不漁だったものの、大羽の豊漁によって、共販量・共販金額共に、前年および平年値を上回った。ここでは、過去 16 年間の調査を基に、平成 22 年 6 月下旬以降の漁況予測を行った。

## 1. 水温

燧灘東部沖合 4 点における水深 10m の水温の変化をみると、1 月から 6 月の水温は、3 月の「かなり高め」を除き、「平年並み」で推移している。昨年と比べると、4 月から 6 月の水温は低めに推移した。カタクチイワシは水温が約 13℃以上になると産卵を始めることが知られており、今年は 5 月間近になってから産卵が始まったものと思われる。6 月 1 日の水温は、平年より 0.3℃高かったが、昨年より 0.5℃低かった。

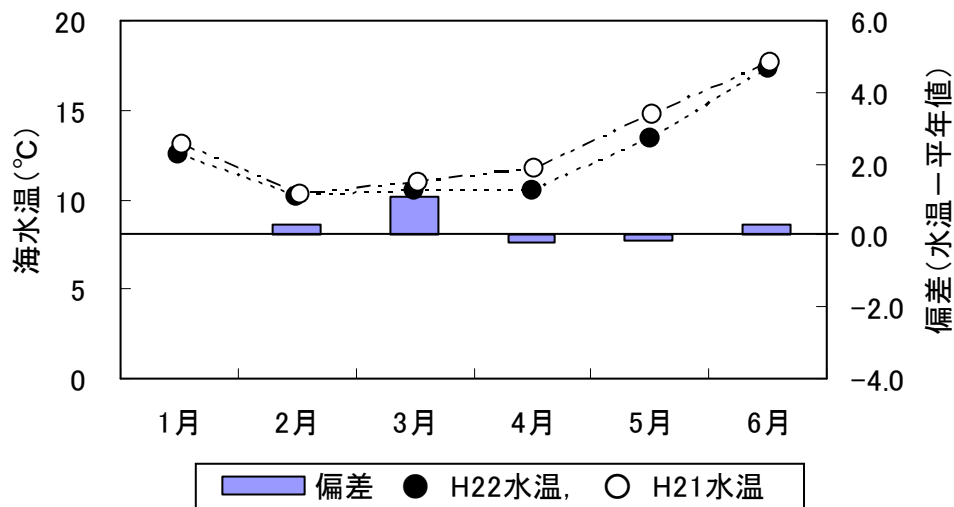


図 1 燧灘における水深 10m の水温の季節変化

## 2. カタクチイワシの卵と仔魚の出現状況

カタクチイワシの卵稚仔の出現状況について調べるため、4 月上旬から 6 月下旬の間に合計 6 回の卵稚仔調査（浅海定線調査を含む）を行った。卵稚仔の採集はマル特 B ネット（口径 45 cm）の 20m 鉛直曳きで行った。

カタクチイワシの卵は、4 月下旬には出現せず、5 月上旬から出現した。5 月上旬から 6 月下旬にかけての出現量は、昨年と同じ程度で、平年値 3 倍以上と非常に多かった（図 2）。仔魚についても同様に多く、5 月上旬以降の仔魚の出現量は、昨年よりも多く、平年値の 4

倍以上であった（図3）。これらのことから、産卵量は平年に比べて、非常に多いものと考えられる。

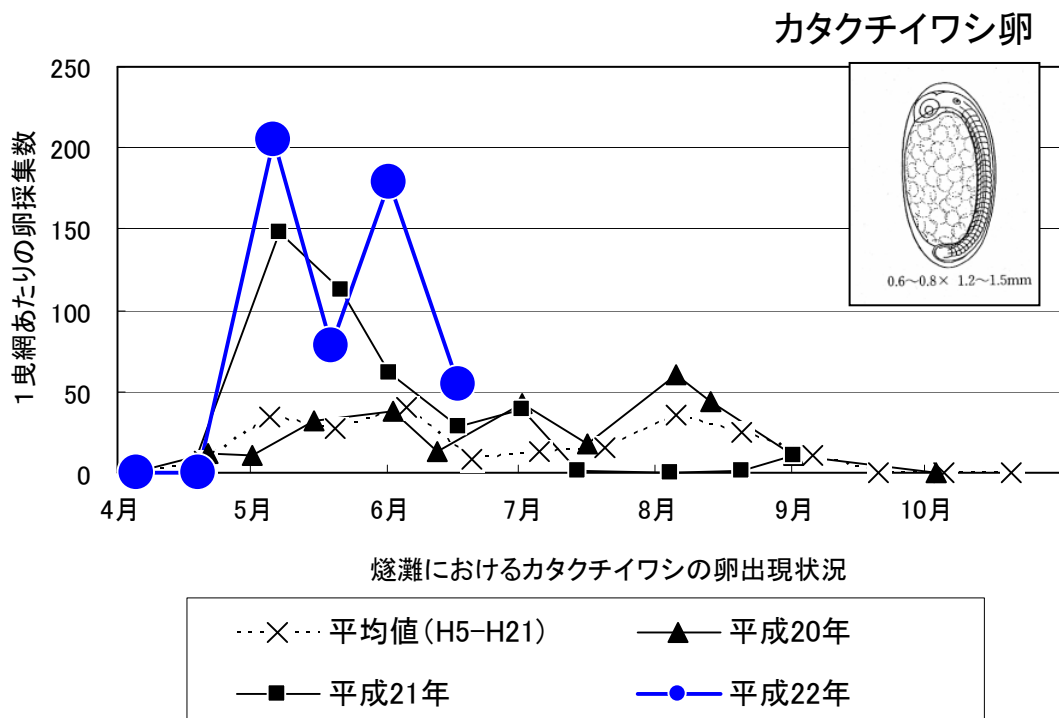


図2 1 曳網あたりのカタクチイワシ卵の採集量

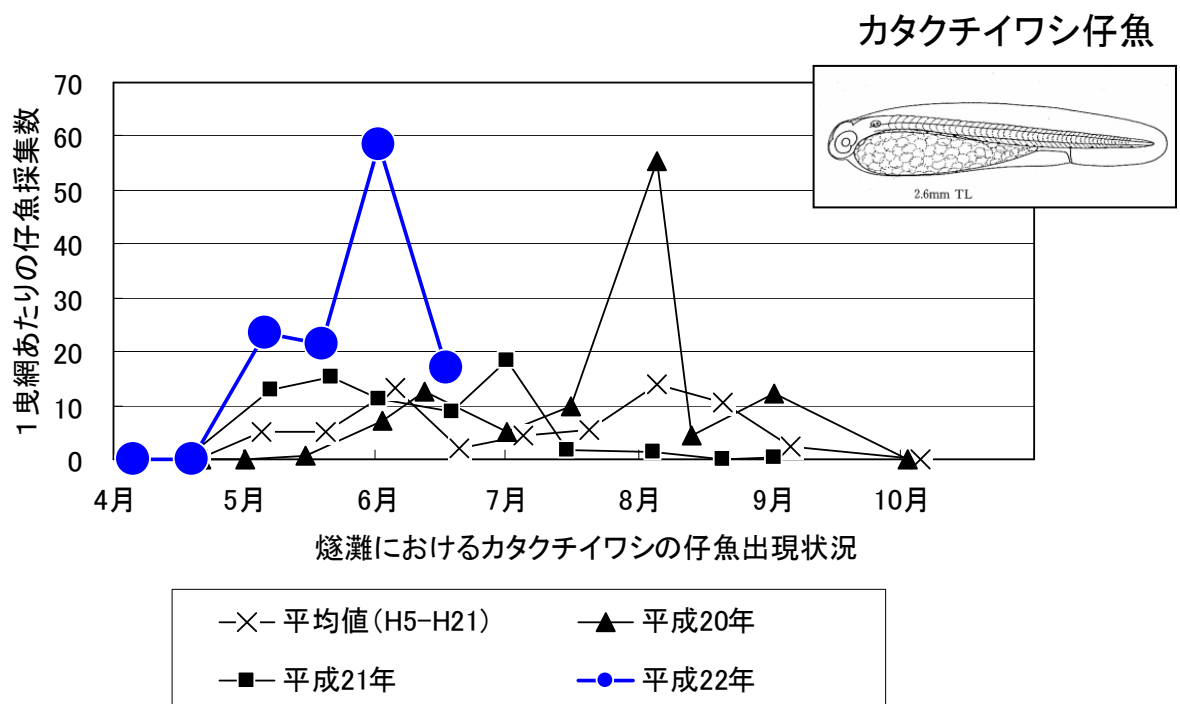


図3 1 曳網あたりのカタクチイワシ稚仔の採集量

### 3. プランクトン

口径45cmのマル特Bネットで動物プランクトンと大型植物プランクトンの調査を実施した。4月上旬から6月下旬までのプランクトンの優占種と沈殿量を表1に示す。

プランクトンの量（沈殿量）は、4月には昨年より少なかったものの、カタクチイワシの卵が出現した5月上旬以降には昨年より多くなった。優占プランクトンは、ノクチルカ（夜光虫）であった。カタクチイワシの主餌料であるカイアシ類（COP）は4～5月に優占し、その密度は平年並みであったが、6月には低密度となった。平成22年の餌料環境は、平年並みかやや低い水準であると考えられる。

表1 プランクトン優占種と沈殿量の推移

	4月上旬	4月下旬	5月上旬	5月下旬	6月上旬	6月下旬
平成22年	COS	NOC	NOC	NOC	NOC	NOC
(沈殿量 mL)	NOC	COP	DOL	COP		DOL
	COP	COS	COP	COS		
	3.7	3.9	4.8	6.8	5.2	9.2
平成21年	NOC	NOC	COP	NOC	SIP	SIP
(沈殿量 mL)		COP	SIP	DOL	HYD	HYD
	6.2	4.0	2.6	2.6	1.7	2.1

※「網かけ」がされているものが、餌となるプランクトンである。

COP：コペポータ（カイアシ類） SIP：シフォノフォーラ（管クラゲ類）

NOC：ノクチルカ（夜光虫） DOL：ドリオラム（ウミタル）

HYD：ヒドロ（ヒドロクラゲ類） COS：コスキノディスクス（珪藻）

### 4. カタクチイワシの漁況予測

6月下旬から漁獲されるチリメンは5～6月に燧灘で産卵された卵が孵化、成長したものである。卵稚仔調査によれば、卵および仔魚の出現量は「平年より多め」に推移している。カタクチイワシの餌となるカイアシ類の量は、「平年並み～やや少なめ」に推移している。

この時期のカタクチイワシは1日約0.7mmで成長し、漁獲サイズの30mmに成長するのは孵化してから約40日後と考えられている。したがって、一般的には早いもので6月上旬からチリメンとして加入し始めるものと推定される。

チリメン漁解禁後の漁況予測：4～6月の水温が低めに推移しているため、昨年より加入が遅れるものと考えられる。5～6月の卵と仔魚の出現量は「平年より非常に多い」ことから、十分な産卵量が確保できている。しかし、餌料環境は「平年並み～やや少ない」ものと思われる。以上のことから、チリメン漁のすべり出しはややもたつくものの、チリメンの加入量は、「平年並み」と推測される。